

令和5年度第2回横浜市学校規模適正化等検討委員会 会議録

日 時	令和5年11月9日(木) 10時30分～12時00分
開催場所	横浜花咲ビル 2階 203 研修室
出席者 (6名)	小松委員長、野木副委員長、平井委員、竹原委員、東委員、大塩委員
欠席者 (4名)	倉斗委員、片岡委員、細田委員、室伏委員
開催形態	公開(傍聴者1人)
議 事	1 部会からの報告 3件
決定事項	
議 事	<p>1 部会からの報告 「斎藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会における検討状況について</p> <p style="text-align: center;">(事務局から資料に沿って説明)</p> <p>(竹原委員) 検討部会が開催されてからずいぶん経ちますが、保護者への連絡はどうなっていますか。地域では意見交換会で活発に議論や周知がされていると思いますが、そこで意見がまとまらないと、幅広く保護者の理解を得て進めていくことになると思います。</p> <p>(事務局) 意見交換会の内容については、ニュース等は発行していませんが、議事録を作成し、本市HPに掲載しています。ただ、部会自体は前回開催してから1年間は空いており、保護者の方も不安だと思いますので、整理がつき次第部会を開催し、改めてニュース等で周知を図っていきたいと考えています。</p> <p>(小松委員長) 保護者の方も一年経つと入れ替わりますので、引き続き丁寧に対応していただければと思います。</p> <p>1 部会からの報告 「日限山小学校・南舞岡小学校」通学区域と学校規模適正化等検討部会における検討状況について</p> <p style="text-align: center;">(事務局から資料に沿って説明)</p> <p>(小松委員長) 個別相談会の＜主な御意見＞欄に「南舞岡はこれから確実に子どもが増えていく地域だ。」とありますが、根拠はあるのですか。</p> <p>(事務局)</p>

根拠ではなく、実際に住んでいる方の感覚でした。南舞岡は戸建の住宅地域で、建築協定等でマンション等が建てられない地域です。その方の話では、戸建住宅の住み替えがかなり進んでいて、子育て世代が転入しているので、子どもは増えるはずということです。大規模なマンション開発がないと子どもが増えるのは難しいとお話しさせていただきました。

(小松委員長)

大規模な建築計画はないのでしょうか。

(事務局)

御高齢の世帯が転居した場所や空き家に新しい戸建の住宅が建ち、子育て世帯が転入されるという状況が発生しているようです。

(小松委員長)

最近の子育て世代が買えないくらい不動産が高騰している地域があるそうです。本当に若い世代が入ってくる地域なのか根拠を持たないと、義務教育人口推計に誤差が出てしまうため、丁寧に確認してほしいと思います。

(事務局)

推計の急増要因について、数年に一度更新を行っています。今後、より精緻な数値を算出したいと思います。

(小松委員長)

横浜市は日本の縮図のようで、小規模化していく学校と過大規模校化していく学校の両方があります。事務局は客観的なデータを活用して、より慎重に進めてください。

(大塩委員)

学校の統合に関して、どちらの学校の関係者から反対意見が多いのでしょうか。

(事務局)

小規模校の学校の方からの反対意見が多い印象です。

(大塩委員)

1クラスあたりの人数が35人よりも20人台で推移するのは、理想的な形だと思います。子どもたちの学びの環境を考えると、1クラスあたりの人数も大事な要素になります。人数が多いと授業中もざわざわしますが、人数が少ないと静かな環境で学習に取り組むことができます。

(事務局)

南舞岡小学校では、特に単学級で35人近くなっている学年があります。教員は基本的には学級数に応じて配置されますので、南舞岡小学校では1人の先生がたくさん子どもたちを見ています。そのように学校運営上苦勞されているところについても、部会の中で議論していきたいと思います。

(東委員)

南舞岡小学校はどのくらいの歴史があるのでしょうか。

(事務局)

日限山小学校から分離新設され、昭和 56 年に設立されています。

(東委員)

もし統合になった場合は、以前の状態に戻るとのことですか。

(事務局)

本市の規模適正化の考え方は、両校を閉校して、新しい学校をつくるということになりますので、以前の状態に戻るわけではありません。ただ、もし規模適正化されて統合するとなると、この地域で 1 つの学校という形にはなりません。

(東委員)

私も自分が通っていた高校が統合した経験がありますが、母校がなくなるということでもあります。不安もあると思いますので、保護者に対して不安を軽減する説明ができれば良いと思います。規模適正化が子どものためには良いことだと分かっていますが、保護者としては、どちらの学校がなくなるのか、学校の名前をどうするか等も気になると思いますので、そうした気持ちが大きいと感じました。

(事務局)

部会委員の中には南舞岡小学校の卒業生もいますので、母校への愛着を事務局としても感じています。両校の伝統を受け継いだ良い学校、地域の学校をつくっていききたいということを丁寧に説明し、進めていきたいと思っています。

(小松委員長)

学校規模適正化等検討委員会では、人数の観点だけではなく、子どものため、教育の質を保障するために、どういう学校の在り方が良いのかを議論する必要があると思います。子どもたちにとって、どのような環境で、どのような教育内容の学校が良いのか、これまでも保護者や地域の皆さんと話し合いながら、議論していただくスタンスできたと思います。あくまで、教育の質の向上ということが大きな目標なので、そのための御意見を伺いたいと思います。

(平井委員)

このような相談会を設けるのはよくあることなのですか。

(事務局)

部会の進め方はその時の状況によって異なりますが、過去にこのような形で相談会を行った部会はないと思います。学校規模適正化の方向性がある程度決まった段階で、保護者向け説明会を実施することはあります。今回、なぜ相談会という形をとったかという、まだ部会の中で何かが決まったわけではなく、地域・保護者の方に新

たに説明する材料がない状況で、部会委員の方から、地域・保護者の方が事務局と話したいという声がある、という御意見を受け止めて実施しました。

(平井委員)

この相談会に来た方は、学校統合に対する不安は軽減できたのでしょうか。

(事務局)

もともと南舞岡小学校を残して欲しいという考えをお持ちの方でしたので、御理解いただけたというところまではいっていないと思います。ただ、初めて顔を見て事務局と意見交換ができ、言いたいことが言えた点については、感謝の言葉もいただきましたので、実施して良かったと感じています。

(平井委員)

今後も丁寧に進めていただければと思います。

(事務局)

ありがとうございます。

(野木副委員長)

日限山小学校の校舎を使用するということですか。

(事務局)

どちらの校舎を使用するかについては、まだ決まっていません。

(野木副委員長)

児童数について推計を見ると、日限山小学校は400人台から300人台まで減りますが、南舞岡小学校はほぼ横ばいになっており、保護者としては、どうして南舞岡小学校がなくなって日限山小学校に通わなければならないのか、という気持ちがあるのだと思います。南舞岡の方は、暮らしやすく子育てに良い場所だという誇りを持っているのだと思います。学校の場所と名前を考慮すると理解が得られると思います。

(事務局)

部会ニュース第5号の2ページ目の「3 通学区域の検討」の地図をご覧ください。点線で囲ってあるのが、統合した場合の通学区域案です。南舞岡小学校の学区は左側ですが、主に人が住んでいるのは、南舞岡1～4丁目の辺りです。それ以外は市街化調整区域で、舞岡公園や田畑、農業振興地域になっていて、あまり人が住んでいない状況です。校舎の検討では、両校の基本情報を掲載していますので、今後議論していくことになると思います。

(小松委員長)

進学先の中学校はもともと一緒ですか。

(事務局)

はい。

(小松委員長)

最近の教育の在り方として、小中が連携して9年間で育てていくということですので、子どもたちの様々な学びを保障していく上では、小学校と中学校がしっかり連携する必要があります。日限山小学校と南舞岡小学校は、中学校に入れば同じ学校に通うため、この小中一貫教育推進ブロックを強化していくという意味では、別の中学校に通う小学校同士の統合とは、条件が随分違うと思います。

(事務局)

もともと日限山中学校と日限山小学校、南舞岡小学校で小中一貫教育推進ブロックになっています。学校運営協議会もこの3校で行っており、3校の校長先生や教員の方は常に一緒にこの地域の教育についてやり取りしている状況です。保育園、幼稚園が一緒だったお子さんが、小学校で分かれて、中学でまた一緒になる状況があり、地域のお祭りでは両校の子どもが来ていたり、学校は違うけれど友達関係ができていて、という話を聞きます。区の境界線はありますが、開発年次も同じくらいで、どちらも戸建住宅の街並みになっており、生活圏はほぼ一緒のようです。

(小松委員長)

学校運営協議会を一緒に行っていると、議論の内容にもよりますが、親密な関係になります。新しい学校といっても、今まで色々と積み重ねてきた活動や関係性がありますので、もう一歩先の両校の在り方について議論を進めていただいた方が、子どもたちへの義務教育9年間の保障ができると思います。

(野木副委員長)

そのようなビジョンのためだと、前向きになります。今の議論だと、どちらか1校が閉校する感じになっているように見えます。

(竹原委員)

検討部会の委員の方にはどうしても負荷がかかってしまいます。例えば、近所の方から「学校統合に反対だったのに」と言われてしまうのは怖いと思いますので、できるだけ説明会や相談会を実施し、事務局が意見を吸い上げる取組は非常に良いと思いました。9月11日に検討部会を行い、部会ニュースを10月10日に発行し、10月末に相談会を開催されていて、非常に動きが早いと感じました。相談会の参加者が少なく、反対意見が多く見えますが、参加者が少ないということは検討部会の進め方に納得している人が多いと考えることもできます。

(小松委員長)

非常に熱心に、議論していただいていると思いますが、引き続き根拠を持って議論が行われ、子どもたちの教育環境が更に良くなるように、事務局にもご協力をお願いしたいと思います。

1 部会からの報告

東戸塚小学校過大規模対策検討部会における検討状況について（報告）

（事務局から資料に沿って説明）

（大塩委員）

分校設置で話がまとまり、非常に良かったと思います。資料3-1-③で個別支援学級について記載がありますが、個別支援学級が一般学級と交流を行うこと考えると、共用部分に教室をつくるのが望ましいのではないかと思います。

（事務局）

個別支援学級については、教育委員会内部の所管部署でも意見交換を行い、1～3年生の棟に低学年、4～6年生の棟に高学年を配置したらどうかという御意見もありました。管理区分線はありますが、行き来はできる形になると思いますので、学校の状況に応じて、低学年と高学年を分けるか一緒にするか、これから議論させていただきたいと思います。

（小松委員長）

具体的に色々考えていくと、特に校長先生が大変な責任を負うことになると感じました。同じ敷地とはいえ、建物が別々になってしまうと、様々な面で気を使う必要があります。どちらかの校舎に校長先生がいて、他方に副校長先生を置くと、両者のコミュニケーションはどうするのか。私も事前に相談されましたが、分校設置は、ベストというよりもベターなやり方かと思います。

（大塩委員）

図面にはありませんが、プールはどうするのですか。

（事務局）

検討部会の中では、低学年と高学年で水を張る高さが違うため、低学年用のプールと高学年用のプールを設置する考え方もあるという御意見もいただきました。ただ、プールを2つ整備するのかということもありますし、横浜市では試行的に水泳授業の民間委託を行っており、東戸塚小学校はすぐ近くに民間プールがあります。学校に整備するかどうか、今後の動向を見ながら考える必要があると思っています。

（小松委員長）

今後検討とありますが、検討に数年かかれば当初議論に参加していた校長先生が異動になり、後任の方から「どうしてそうなったのか。使いづらい。」という声が出るかもしれません。ハード面の議論やソフト面の議論、安心・安全のための防災も含めた管理責任の問題を検討する組織をつくった方が良いと思います。

（平井委員）

1～6年生までそろって小学校であるという御意見がありますが、市場小学校でも運動会等は一緒にやっているのですか。

(事務局)

一緒に行っている行事もあれば、分けて行っている行事もあります。

(平井委員)

全学年で行う行事や大規模なイベントについて、市場小学校は分校が離れているため難しかったと思いますが、東戸塚小学校はグラウンドが大きいので、そうした特徴を生かして前例も見ながら考えていけば良いと思います。

(事務局)

過大規模校であっても分離新設せずに1校で運営している学校もあります。大阪市には道路1本はさんで分校を設置している例もありますので、ヒアリングする等して、少しでも参考になる検討材料を事務局側で用意していきたいと考えています。

(小松委員長)

分校ではなく、〇〇校舎・〇〇校舎という形で、一方に1～3年生、他方に4～6年生とするやり方もできなくはないと思います。分校という形で、管理運営の組織を区分するのは大変だと思います。

(平井委員)

管理運営の組織を分けている事例があるのですか。

(事務局)

市場小学校は、本校と分校の距離が少し離れていて、校長先生は基本的に本校にいます。義務教育学校の場合は、中学校に校長先生がいて、小学校には準校長という副校長格の先生が管理・運営している例もあります。様々な事例を集め、どのようなやり方が一番良いのか検討していきたいと考えています。

(平井委員)

校舎だけ分ける方法だと過大規模校のままですね。

(事務局)

ある程度管理範囲を分け、一緒に行うものは交流、連携していきます。

(小松委員長)

学校ができて運営となると、数十メートルしか離れていなくても建物が違うと空気感がわからないこともあり、今後検討する宿題を残さざるを得ないと思います。「東戸塚小学校」というブランドを残したいという思いがあり、新しい学校を分離新設することに対しては強い反対意見があるようです。学校名等については、非常に強いこだわりがあると思いますので、地域の意見として、事務局からの報告の通りと受け止めたいと思います。

(大塩委員)

先日、市場小学校が150周年を迎えました。本校・分校に分かれているという感じ

	<p>ではなく、一体となって運営されていたので、大丈夫だと思います。</p> <p>(小松委員長) 職員室も一つですか。</p> <p>(事務局) 市場小学校は本校と分校に分かれています。東戸塚小学校の配置については今後検討したいと思います。</p>
<p>資 料</p> <p>・</p> <p>特 記 事 項</p>	<p>【資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「次第」 ・「委員名簿」 ・「座席表」 ・「斎藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会における検討状況について（報告） ・「日限山小学校・南舞岡小学校」通学区域と学校規模適正化等検討部会における検討状況について（報告） ・「日限山小学校・南舞岡小学校」通学区域と学校規模適正化等検討部会ニュース 第4号 ・「日限山小学校・南舞岡小学校」通学区域と学校規模適正化等検討部会ニュース 第5号 ・東戸塚小学校過大規模対策検討部会における検討状況について（報告） ・東戸塚小学校で想定する分校について ・東戸塚小学校過大規模校対策：3つの方策検討の視点と事務局の評価 ・横浜市立東戸塚小学校過大規模校対策で想定する分校の学年分けについて ・東戸塚小学校過大規模校対策検討部会ニュース 第2号 <p>【特記事項】</p> <p>なし</p>